

ジャック・アタリ著「教育の超・人類史 サピエンス登場から未来のシナリオまで」大和書房 2024年7月1日刊を読む

## 日本の読者へ

1. 本書が日本で出版されることを大変光栄に思う。これまで私はさまざまな分野において、過去を分析することによって未来を予測する書籍を多数上梓してきた。本書もそうした試みの一冊だ。
2. (1) 世代間で知識を伝承すること、つまり、過去から未来を築くことが教育の役割だが、教育を通して未来を占うことは難しくなった。  
(2) なぜなら、職業の種類が安定していた過去と異なり、今日では、未来にどのような職業が存在するのかが、わからないからだ。  
(3) また、将来の世代にはどのような脅威が訪れ、どのような課題が待ち受けているのかも、きわめて不透明だ。
3. (1) そのため、教育も時代の流れに応じて柔軟でなければならず、社会のあらゆる階層の子供も大人も、そして男子だけでなく女子も、教育に関心を持つ必要がある。  
(2) とくに日本の教育制度は、優秀な生徒にとってはきわめて効率的だが、女子よりも男子を、そして優秀な生徒を優遇しすぎ、暗記と競争に重きを置きすぎている。  
(3) その結果、生徒は学歴病、引きこもり、受験戦争などで若くして疲弊してしまうこともあるだろう。
4. (1) 今日、世界の他の地域と同様、日本もあまりにも急速なテクノロジーの進歩に脅かされている。  
(2) 若者は読み書きから遠ざかり、SNSやビデオゲームに釘付けになっている。  
(3) これらの新しいテクノロジーは輝かしい未来の展望を切り開く一方で、すべてが教育に資するわけではない。
5. (1) 国民の生活水準と暮らしを守る鍵である教育水準を維持するには、教育を発展させ続けなければならない。日本の未来の教育は、地政学、文化、教育学、テクノロジーなどを考慮して発展させなければならない。  
(2) とくに人工知能(AI)と神経科学は、教育に多大な影響をおよぼすだろう。  
(3) こうした新しい分野の教育では、教師と保護者に対するこれまでにない研修や、斬新な教育法の開発が必須になる。

6. (1)理想的な教育制度はまだ見えていないとしても、今日、世界で最も優れた教育制度は、フィンランドとシンガポールのものだと言われている。

(2)その理由を挙げると、①教育学の最新の知見の導入、②自国文化のニーズや特異性の考慮、③教育への潤沢な公的支出、④教師の社会的地位の高さ、⑤および経済的な豊かさ、⑥家族ならびに国民全員に生涯教育を受ける機会を設けるという社会的な仕組みなどだ。

7. つまり、世界の他の地域と同様、日本においても、①外国の教育事例に精通し、②性別や出自にかかわらず、③生徒、若者、大人に教育の機会を均等に保証し、④インターネットやビデオゲームの中毒に抗い、⑤読書と手書きを奨励し、⑥競争の激化を緩和し、個人のテスト結果に重きを置きすぎず、⑧将来必要とされる資質を育成することが急務なのだ。

8. 重要になるのは、

(1)①創造力や②独創性と③独自性の追求

(2)①意欲、②努力、③粘り強さ

(3)①危機感、②へこたれない精神、③情熱

(4)①親切心、②共感力、③チームワークの精神

(5)①長期的な視野、②自国の言語と文化の保護などである

9. これらすべてにおいて、日本の歴史は、輝かしい未来の礎となるだろう。

P2 ~ 4

1. 中世、日本は中国をモデルにして知識伝達システムを構築した。

2. (1)学問の重要な場である寺院では、仏教、漢字、儒教の基礎が教えられた。

(2)一説では文人である小野篁おののたかむらが設立したとされる足利学校など、いくつかの高等教育機関が設立された。

3. しかし大衆は、まだ家庭や一族を通じて(式典、儀式、祭礼を密かに伝える)伝統的な教育を受けていた。

4. そして世界の知識伝達の仕組みに、技術と倫理の面で激震が走った。

<コメント>

ジャック・アタリ氏の最新著。人類はいかに「知」を受け継いできたのか。欧州の「知の巨人」による未来予測。小野篁が創設したといわれる足利学校も紹介されている貴重な作品。

2024年8月5日(月)

林 明 夫